

出演 performer

piano | イリーナ・メジューエワ Irina Mejoueva

cello† | 西谷牧人 Nishiya Makito

flute | 森本英希 Morimoto Hideki

harp | 速海ちひろ Hayami Chihiro

violin | 佐藤一紀 Satō Kazunori

violin | 春日井久美子 Kasugai Kumiko

viola | 般若佳子 Hannya Yoshiko

cello | 一樂恒 Ichiraku Hisashi

作曲家 平野一郎の世界 2023

The Music World of Hirano Ichirō 2023

ゐ か い げ ん さ う

異界現想

WIQAI -GUENSŌ

曲目 program

蜃氣樓 I [無伴奏フルート]

SHINKIRŌ I for Unaccompanied Flute

ウラノマレビト [弦楽四重奏]

URA NO MAREBITO for String Quartet

二つの海景 ♀ 祈りの浜 | ♂ 怒れる海民の夜 [ピアノ独奏]

TWO SEASCAPES ♀ Prayer on the Seashore ♂ Night of Angry Seamen for Piano

迦具夜 四種のフルートと声を伴うハープに依る歌物語

KAGUYA Uta-monogatari for 4 types of Flute and Harp with Voice

夢祀 [無伴奏チェロ]†

YUME NO MATSURI for Unaccompanied Cello

鱗宮 I舟歌 | II挽歌 | III祝歌 [ピアノ&弦楽四重奏]

IROKO NO MIYA I: Funa-uta II: Hiki-uta III: Hogi-uta for Piano & String Quartet

2023年3月3日(金)

17:30開場 18:00開演

〈全席自由〉一般 4,000円

京都コンサートホール
アンサンブルムラタ

〒606-0823 京都府京都市左京区下鴨半木町1-26

京都市営地下鉄烏丸線 北山駅下車 1番または3番出口 南へ徒歩5分

主催: ArTRANDOM

共催: 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 エフエム京都

協賛: ワオンレコード 日本ピアノサービス

後援: 京都府、京都市、京都新聞、JEUGIA

協力: 一般社団法人若手芸術家育成支援プロジェクト

▶ チケットお申し込み

京都コンサートホール・チケットカウンター 075-711-3231

(10:00~17:00/第1・3月曜休 ※休日の場合はその翌平日)

オンラインチケット購入 (24時間いつでも購入可能!)

ロームシアター京都・チケットカウンター 075-746-3201

(10:00~19:00/年中無休 ※臨時休館日を除く)

チケットぴあ <https://l.pia.jp/> (Pコード232-426)

▶ お問い合わせ: ArTRANDOM t-maeda@artrandom.info 090-6679-0308(マエダ)

うつし世にコト問ふ、かくり世のモノ語り。



ArTRANDOM
By Chou

美術 | 前田剛志「九重画 星舟」(部分) / portrait © Maki Takagi

異界現想…

ひとならざるものたちの蠢く景色であろうか？

「この世」と「あの世」とのあいだを彷徨う魂の姿であろうか？

日本列島の神話・伝説・祭礼にインスパイアされた独自の視点で作曲を続ける、音の旅人=平野一郎の稀有な音楽世界を紐解くコンサート。

雅びと鄙び、現在・過去・未来、そして時空を超える幽玄を、
八百万の有象無象が歌い奏でる音絵巻。

作品に共感する素晴らしい奏者たちが一堂に集って繰り広げる一夜限りの饗宴に、ぜひお立会ください。

主催 ArTRANDOM 前田哲央

作曲家・平野一郎

丹後國宮津出身。96年より各地の祭礼と音楽を巡る踏査を始動。97年京都市立芸術大学作曲専修卒業、99年大学派遣によりプレーメン芸術大学に留学、2000年京都市芸大大学院作曲専攻修了。01年より作曲活動を本格開始、京都を拠点に日本の風土や伝承に根差した創作を展開。響きや調べ、声と言葉の根源をたずね、失われた身体性・全人性を呼び覚ます音楽世界を志す。日本交響楽振興財団作曲賞最上位・日本財団特別奨励賞(2005)、青山音楽賞(2007)、京都市芸術新人賞(2007)、現音富樫賞(2013)、藤堂音楽褒賞(2018)、京都府文化賞奨励賞(2019)等受賞。ISCM世界音楽の日々2008ヴィリニウス大会入選・参加。2011年演奏家・美術家らと協働しモノオペラ「邪宗門」制作・初演。「鱗宮△交響曲」(2010/芦屋交響楽団)「いそぼのふわぶらす」(2011/ザ・フェニックスホール)「四季の四部作」(2014/吉川真澄)「蜃氣樓●協奏曲」(2014/森本英希)「八幡大縁起」(2016/やわた市民音楽祭)「二重協奏曲<星巡ノ夜>」(2014/館野泉)「綺多羅」(2017/大萩康司)「鳥ノ遊ビ」(2017/通崎睦美)等委嘱作品多数。17年より出雲芸術アカデミー=コンポーザー・イン・レジデンス拝命、《出雲の春音楽祭》にて“未来の伝統芸術”を謳う「連作交響神楽」(全9部作/管弦楽+声楽)進行中。18年国立劇場《日本音楽の流れII~琵琶~》にて二面の復元正倉院[四/五絃]琵琶、笙、打物と8人の群声に依る「胡絃乱聲」初演、19年東京藝術大学邦楽科卒業生による“森の会”60周年定期演奏会にて42人の邦楽合奏の為の「とこよのはる」初演。19年正月NHK-BS8Kドキュメンタリー《落慶~奈良・興福寺~》音楽制作。21年打楽器合奏曲「ヤポネシアの森から」(金沢市民芸術村)初演。22年多和田葉子書き下し台本によるオペラ『あの町は今日もお祭り』(全5幕/くにたち市民芸術小ホール)初演。「平野一郎は現代日本で私が最も高く評価する作曲家のひとり」(ピアニスト/館野泉)「作曲家の平野一郎さんも物語の旅人である。彼は、物語、伝説、神話そのもの

のから、それを求める旅の情景までを音で紡ぎだす。」(探検家/高橋大輔)「平野の作品は、現実と幻想、現代と太古を融け合わせ、忘れられた伝説や異界の音風景を今に蘇らせつつ、多彩な音楽世界を拓いている。」(建築家=建築史家/マヌエラ・アントニウ)など様々な方面から注目を集めている。



Hirano Ichirō (composer)



Irina MEJOUÉVA (piano)



Nishiya Makito (cello †)



Morimoto Hideki (flute)



Hayami Chihiro (harp)

イリーナ・メジューエワ (ピアノ)

ロシア出身。グネーシン音楽大学でウラジーミル・トロップに師事。1992年、E.フリプセ国際コンクール(ロッテルダム)優勝。1997年からは日本を本拠地として活動。バロックから近・現代までの幅広いレパートリーを手がける。2017/18年、東京文化会館で日本デビュー20周年記念リサイタル(全3回)。2006年からは毎年京都でリサイタルを行うなど、精力的な演奏活動を展開。2006年度青山音楽賞。CD「ショパン:ノクターン集」は2010年度のレコードアカデミー賞(器楽曲部門)に輝く。2015年、第27回ミュージック・ペンクラブ音楽賞。著書に「ピアノの名曲」と「ショパンの名曲」(いずれも講談社現代新書)。

西谷牧人 (チェロ)

奈良県出身。東京藝術大学、同大学院、米国インディアナ大学を修了。これまでに河野文昭、堤剛、ヤーンシュ・シュタルケルの各氏に師事。兵庫芸術文化センター管弦楽団の創設メンバーを経て、2008~2019年まで東京交響楽団首席チェロ奏者を務める傍ら、東京藝術大学非常勤講師として後進の指導にもあたる。2013年度青山音楽賞受賞。2015年、自作自演弦楽ユニット「清水西谷」を結成し、これまでに2枚のアルバムをリリース。現在は幅広くジャンルを超えた演奏活動を展開する傍ら、愛知県立芸術大学にて後進の指導にも当たっている。2022年ソロアルバム「STORY」をリリース。

森本英希 (フルート)

京都市立芸術大学修士課程修了。現在、テレマン室内オーケストラ首席フルート奏者。アンサンブル・リュネットリーダー、ネクスト・マッシュルーム・プロモーション団員。日本フルートコンヴェンションコンクールアンサンブル部門第1位、京都芸術祭 京都新聞社賞、他、受賞多数。これまでに、ライブツィヒ・パッサ・フェスティバル、丹波の森国際音楽祭、韓国国際音楽祭、武生国際音楽祭、北とびあ国際音楽祭、他国内外の音楽祭に多数出演。フルート・リコーダー・篠笛等様々な笛を持ち変えることのできる稀有な奏者としても幅広く活躍。

速海ちひろ (ハープ・ソプラノ)

立教大学仏文学科卒。幼少より音楽・演劇・バレエを学び、一時は古典芸能の世界に身を置きその道を志すも、国際ロータリ財団より奨学金を得て英・仏に留学。ハープと声楽を学び、国際コンクールやマスタークラスで優勝・上位入賞を重ねる。その後「グランドハープ弾き歌い」奏者としても国際コンクールで上位入賞を重ね、その第一人者としても活躍の場を広げて来た。これまでに、「北とびあ国際音楽祭」「台湾国際ハープフェスティバル」はじめ、国内外の音楽祭や演奏会に多数出演。今後も、フランスの「Harpe aux Max」他、招聘が予定されている。



Satō Kazunori (violin)



Kasugai Kumiko (violin)



Hannya Yoshiko (viola)



Ichiraku Hisashi (cello)

佐藤一紀 (ヴァイオリン)

京都市立芸術大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修了。パリにて現代音楽を中心に研鑽を積む。兵庫芸術文化センター管弦楽団(HPAC)第1期コアメンバー、長岡京室内アンサンブルメンバー、いずみシンフォニエッタ大阪、各メンバーとして活動。パリ、フガートアソシエーション弦楽講習会、ニューヨークヴァイオリン サミット教授として、また国内外の主要オーケストラのコンサートマスターとしても招聘されている。現在、相愛大学音楽学部、及び大学院非常勤講師を務める。KOTO QUARTET、TAKE★SAT'eliccOも結成、活動の場を広げている。M.オークレール、R.パスキエ、M.le.ディゼス、S.ルセフ、A.モッチアの各氏に師事。

春日井久美子 (ヴァイオリン)

大阪府立夕陽丘高等学校音楽科入学後、名古屋市立菊里高校音楽科に編入。東京藝術大学卒業後、2009年よりカヤレイ・ヴァイオリン・アカデミー(スイス)にて研鑽を積み、2013年ディプロマを取得。現在は名古屋とシュトゥットガルトを拠点に活動。妹の春日井恵とのヴァイオリン・デュオ・コンサート、名古屋弦楽四重奏団としての活動、KOTO QUARTETとしてのベートーヴェンの弦楽四重奏曲全曲チクルス、室内楽集団レーベインムジークなど、ソロ、室内楽の双方で活躍している。

般若佳子 (ヴィオラ)

桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部卒業、同年フランクフルト音楽・舞台芸術大学入学を機に渡欧。ブリュッセル王立音楽院編入、同時にictus ensembleの公演に参加。以来、ヨーロッパを拠点に活動後2005年帰国。現在、金沢を拠点にクラシック~現代まで多岐に渡り演奏。広島市最優秀新人賞、シエナキジアーナディプロマ名誉賞受賞。2004年度文化庁在外派遣研修員。2020年度金沢市民芸術村レジデントアーティスト。

一楽 恒 (チェロ)

3歳よりチェロをはじめる。京都市立芸術大学音楽学部卒業。関西を拠点にフリー演奏者としてソロや室内楽、オーケストラ等で活動。クラシック以外の分野でのライブも積極的に行なっている。これまでに森田健二、上村昇の各氏に師事。また原田貞夫、アラン・ゴーサン氏などのマスタークラス受講。KOTO QUARTETチェロ奏者。

使用ピアノ：1922年製ニューヨーク・スタインウェイ
(日本ピアノサービス株式会社所有)